

3. 「アドバイザーの魅力度アップを目指して」

アドバイザー（AD）養成講座の参加者増を目指した取り組み、登録後のフォロー体制や活動支援策等について、5協会からさまざまな工夫や試行の事例発表がおこなわれました。

(1) 人生100年時代とは

① (一社) 神奈川健康生きがいくリアドバイザー協議会……事務局長 徳田裕美子

AD受講者増を目指し実施していることは、まずは、参加者募集チラシの県内全域への配布、ホームページからの受講申込み受付、「定年時代」という無料のフリーペーパーの活用等で、その他、登録AD活躍の場創出が神奈川健生の魅力づくりにつながると信じ各種サークル活動等を行っている。なお、「産業カウンセラー」資格を有するADが多いことから、日本産業カウンセラー協会へのアプローチや、産業能率大学通信講座受講生の協議会登録へ向けた支援（通信講座の受講中にAD活動が理解できる動画の紹介）等、財団との連携・協力をよりすすめていきたい。



② 石川健康生きがいくリアドバイザー協議会……会長 岸弘市

活動方針として、明るく仲良く楽しい仲間づくりを目標に、ADがリーダーとなり各種サークル活動を展開中。さらに登録ADが得意分野の講師を担当することで、謝金を得られる機会を創出するため、いしかわ長寿大学、公民館講座等への出前講座（講師活動の場）の開拓に力を入れるとともに、講師活動に必要な「プレゼンテーション能力研修会」等を実施している。なお、AD養成講座開催に際しては、参加者の一般公募をせず登録ADのネットワークを活かし、信頼できる知人、友人を紹介するという形で実施している。



③ 山梨県健康生きがいくリアドバイザー協議会……会長 沢登京子

山梨健生では2016年から「AD養成講座」を山梨県の中心で開催。開催に際しては、山梨日日新聞に10回程度広告を掲出している。また、毎年開催している「健康生きがい講演会」当日には、必ず新聞記者による取材と講演会の模様を記事として掲載いただいている。なお、協議会のネットワークを活かし医療、健康、福祉分野の行政・団体・組織から「後援」名義をいただき実施している。これからも、少しでも新しい情報を皆さまに届けられるように、日頃のサロン活動の充実を図っていきたい。



(2) アドバイザー育成策としての「受講後のフォロー体制、活動支援策」

① (一社) 健康生きがいくおやかやま……会長 松井浩明

健生おやかやまでは、理念と思いが詰まった「はばたく健生おやかやま」という協議会の歌を、作詞：有村会員、作曲：檜山会員で制作。この歌により仲間意識が高まってきている。行政・学識経験者・企業・市民との連携と絆を深めるためのさまざまな活動を行っており、自助・互助の精神のもと健康寿命延伸へ向けた「フレイル予防事業」、生涯現役わくわく大学講座、フレイルチェックを取り入れた健生茶屋の運営等を通じ、住みやすい街づくりに貢献していきたい。



② (一社) 健康生きがいくリアドバイザー北海道協議会……代表理事 渡邊一栄

北海道健生として通年で実施していることは、まず、毎月第4土曜日午後の定例会（ハイブリッド方式）開催である。そのためのオンライン会議参加のスキルアップを目指したZoom勉強会や認知症予防としての「共想法」

を実施している。2点目はADがリーダーとなつての各種サークル活動の展開。3点目は講師派遣活動で、札幌市社会福祉協議会主催のシニア向けセミナー「知っ得ひろば」(毎月第1火曜日に30分開催)の講座とその後の相談会を受託し、通年で担当している。



4. 「人生100年時代の健康・生きがい新研究会」からの中間報告

(1) 「新研究会」の目的と今後の方向性(小川文男(「新研究会」主任研究員))

新研究会の目的は、1、ADの全国レベルでの情報交換及び活性化の促進 2、点(個人)の活動をネットを利用した線(情報共有)及び面(協議会)の活動へ 3、実践的な地域活動の課題解決及び新たな取り組み、並びに多世代に亘る多様な高齢期の健康・生きがいづくりの研究・提言の3点。全国のADに呼びかけ応募したメンバーにより6月20日発足。今回の中間報告を経て2月に研究成果をまとめ、3月「研究報告書」完成のスケジュールで、研究成果は「季刊 いきがい」に発表・掲載の予定です。

(2) 部会からの中間報告

① 「女性の社会参加」部会……江口郁子(長岡健生創生ネットワーク)

研究テーマとして、学び(1人称)、活動(2人称)、社会参加(3人称)に繋がる人材の育成、産業創生や新産業参画(プロダクトシニア、エンドユーザー他)、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスへの発展、生涯現役としての活躍、生きがい就労・社会貢献他)が挙げられ、この中から当部会での方向性を探っている。

② 「多世代交流」部会……八木一龍(神奈川健生)

多世代交流の実践を踏まえ、持続性、拡大性のために多くの会員の関わり方の必要性。多世代プログラムを取り入れるためには自治体等行政との連携・協働の必要性。多彩な地域の資源・多様なメンバー等の活用による多世代交流としてのつながりができるように努めることが肝要である等の課題があげられた。

③ 「スマートフレイル」部会……井手口ヤヨイ(ひろしま健生)

フレイル予防の啓発と意識づけから、行動・継続へ結びつけるためには、さらなる啓発の推進、行政 医師会・歯科医師会といった各種団体・教育機関・企業・マスコミ・地域包括支援センター等との提携・連携をすすめ、イキイキ体操、百歳体操、地域サロン、高齢者大学、認知症サロン等を通じた広報・啓発が重要であり、目標として、AD 個々人の生き方がフレイル予防実践モデルとなることを目指している。

④ 「ネットによる“つながり”」部会……坂手誠治(健生ネットワーク京都)

健康長寿の実現には、高齢者の孤立や孤独を防ぐ「人と人が関わり合う機会」「つながりの創造」が今後ますます課題となってくる(求められてきている)。こうした社会参加の機会の手段としてSNS(ソーシャルネットワークサービス)利用の可能性、問題点などを明らかにし、SNSを利活用した社会参加の方法を提案することを目的として、各種文献、統計、先行事例の収集と検討をすすめる。なお、介護予防型デイサービスにおけるWeb会議ツールを用いた交流の実態調査も実施する予定である。

(2) 部会からの中間報告

「80歳からの生き方研究会」が1年半の研究結果をまとめた一般販売書籍、「80代からのいきいきライフ」がこの12月1日に完成します。出来るだけ多くの方にご覧頂きたい。と同時に同書籍を教材にした「人生100年時代 ライフスタイル充実講座」を全国で開催していく予定です。まず初めに11月9日に京都健生を通じ「京都SKYシニア大学」で実施しました。アンケート結果からは、改めてですが、ADのみに限らず一般の高齢者にも役立つことがわかりました。来年1～3月に神奈川健生と連携し5回の講座を実施する予定で、埼玉、徳島でも検討がすすんでおり、今後全国各地で各協議会との連携・協働により共同開催方式で実施していく予定です。どうぞよろしくお願い致します。(※P10～11に関連記事あり)